

皆様、おはようございます。

いよいよ5月も終わる頃、昼間の日差しは夏の日差し、そのものとなりました。

梅雨が来るまでの間、緑多き良き季節を十分に楽しみたいものです。

皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。

さて、長らくヨハネ福音書を読み進めておりましたが、来週はペンテコステとのことで、使徒行伝に戻ってまいりました。

8 節 「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

この箇所は世界伝道へと弟子たちを派遣する、主の力強い宣教命令の言葉です。そしてペンテコステで、習いもしない外国の言葉で弟子たちは語り出し、この事を象徴的な出来事として、聖霊により、世界宣教の大きな志が、そのビジョンが現実のものと実現していく様が、使徒行伝には記されています。

今日、この御言葉から教えられるのは、「時」がいつであるかをを知り求めようとする人の考えと、神の権威による定め、そして神様の約束を「待つ」という私たちの姿勢、そして「私たちの国」のことを考えるのか、「神の国」について考えるのか、これらのことが記されてあるのを見ます。

私たちはとかく時間に追われる生活をしております。良いことを思いつき、人を誘おうとしても、「いつかそのうちに」「阿吽の呼吸」では現実性に乏しく、「何月何日、何時何分に」と言えば現実的なものとなります。「早い者勝ち」という言葉のもと、一秒を争う戦いがあります。株相場の上下においては、1秒以下の一瞬の値動きがあります。ぐずぐずしてはいられない、手紙を出してポストに入れる、これもいいですが、電子メールでLINEで、すぐに相手に伝わる時代です。すぐに結果を求める、そういう事が求められています。

3 イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。

イエス様は苦難を受け、十字架に死なれましたが、三日目に復活して、今生きていらっしゃるという事を、繰り返し繰り返し弟子たちにお見せになったという事は、福音書の終わりの所にも数多く記されていました。イエス様が弟子たちに姿をお現しになられ、実にその日数は40日にもわたりました。今年のイースターは4月17日でした。その日をイエス様がお現われになった一日目とすれば、40日間と言えば、実に5月26日までとなります。イースターで卵のお配りがあって、ハンドベルの演奏をして頂いて、あれからずっと、たびたび

イエス様はずっと、つい今日から三日間まで、40日にわたって弟子たちにお姿を現してくださいました。そしてペンテコステは来週の今日ですから、弟子たちが本当に自分たちで待っていたのは10日ほどであったわけです。ペンテコステ（五旬節）とは50日目のお祭りという事ですが、実にそのうちの40日は、五分の4は弟子たちと共にイエス様はいて下さったのです。なんとお優しいイエス様のお姿を見る思いがいたします。

4 そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。

イエス様は弟子たちを励まして、エルサレムから離れないようにとおっしゃいました。エルサレムには神殿があり、そこにはイエス様を十字架につけた祭司長らと律法学者たちがいました。しかしルカ福音書の最後の所には、こう書いてありました。

24:50 それから、イエスは彼らをベタニヤの近くまで連れて行き、手をあげて彼らを祝福された。

24:51 祝福しておられるうちに、彼らを離れて、〔天にあげられた。〕

24:52 彼らは〔イエスを拝し、〕 非常な喜びをもってエルサレムに帰り、

24:53 絶えず宮にいて、神をほめたたえていた。

このルカ福音書の最後の所と、同じくルカが書いたとされる使徒行伝の今日の箇所は出来事が重なっています。弟子たちは、イエス様がお苦しみした後、40日にわたって弟子たちに現れ、ご自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示されましたので、喜んで語られた通りにエルサレムにとどまり、絶えず宮にいて、神をほめたたえていました。そして、「かねてイエス様から聞いていた父の約束を待」っていたのです。

5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを受けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを受けられるであろう」。

ヨルダン川で全身を水に浸し、洗い清めを頂いて、自らの罪を悔いて改め、神様に向かって向きを変えて出発する、立ち帰る新しい生活に進み出た人々でしたが、イエス様は聖霊を弟子たちの全身に満たして、でしたが全く新しい生活へと歩み出ることが出来るように約束をしてくださいました。

「かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。」

先にも申しましたが、私たちは待つことが苦手です。すぐに結果が欲しいと思います。約束と言っても、信頼できるお方の言葉、そうは言っても何か確証が欲しい。そのためにイエス様は、「自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびた

び彼らに現れて、神の国のことを語られた。」のですが、弟子たちは、待つことよりも今のこと、神の国の事よりも自分が身を置いている国のことに関心がありました。

6 さて、弟子たちが一緒に集まったとき、イエスに問うて言った、「主よ、イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」。

この時ですか？ そして、イスラエルの国の復興はどうなるのですか？

主はこう言われました。

7 彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。

「時期や場所」、「時や時期」(新共同訳)は父がご自分の権威によって定めておられる。あなたの知る限りではない。

本当にそうなのです。何年、何月何日、何時何分、どのような巡り合わせのタイミングで。私たちは、そういったことを何でもかんでも知りたいのです。ですから、いつも占いや運勢判断の類いが大人気です。しかし、それらすべては私たちが知る限りではなくて、いつという事、どんな風にという事は、父なる神様がご自分の権威によってお定めになられることなのです。私たちはそんなに細かいことまで知らなくともよいのです。逆に知っていたなら、私たちが何月何日に何々の病気になるとか、交通事故に遭うとか、天に召されるとか、分かったら、私たちはかえって恐ろしくなって生きていけなくなるのではないのでしょうか。しかし私たちは、神様がご約束して下さる良いものを信じて、待っていればいいのです。父なる神様が、私たちが愛して下さる父なる神様が、私たちに良きものをご約束して下さっていて、それを私たちはエルサレムで、神殿で、今でいえば教会で、礼拝で、祈り、信頼して待ち望んでいれば、父なる神様は、ご自分の権威の中で良き時に、定められた良き時に、定められた良いことを私たちに成してくださるのです。

伝道の書(口語訳)

3:1 天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。

3:2 生るるに時があり、死ぬるに時があり、植えるに時があり、植えたものを抜くに時があり、

3:3 殺すに時があり、いやすに時があり、こわすに時があり、建てるに時があり、

3:4 泣くに時があり、笑うに時があり、悲しむに時があり、踊るに時があり、

3:5 石を投げるに時があり、石を集めるに時があり、抱くに時があり、抱くことをやめるに時があり、

3:6 捜すに時があり、失うに時があり、保つに時があり、捨てるに時があり、  
3:7 裂くに時があり、縫うに時があり、黙るに時があり、語るに時があり、  
3:8 愛するに時があり、憎むに時があり、戦うに時があり、和らぐに時がある。  
3:9 働く者はその労することにより、なんの益を得るか。  
3:10 わたしは神が人の子らに与えて、ほねおらせられる仕事を見た。  
3:11 神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終りまで見きわめることはできない。

ローマ 8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

#### コヘレトの言葉(新共同訳)

3:1 何事にも時があり／天の下の出来事にはすべて定められた時がある。  
3:2 生まれる時、死ぬ時／植える時、植えたものを抜く時  
3:3 殺す時、癒す時／破壊する時、建てる時  
3:4 泣く時、笑う時／嘆く時、踊る時  
3:5 石を放つ時、石を集める時／抱擁の時、抱擁を遠ざける時  
3:6 求める時、失う時／保つ時、放つ時  
3:7 裂く時、縫う時／黙する時、語る時  
3:8 愛する時、憎む時／戦いの時、平和の時。  
3:9 人が労苦してみたところで何になろう。  
3:10 わたしは、神が人の子らにお与えになった務めを見極めた。  
3:11 神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終りまで見極めることは許されていない。

ローマ 8:28 神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

#### 伝道者の書(新改訳)

3:1 天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。  
3:2 生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があり、植えた物を引き抜くのに時がある。  
3:3 殺すのに時があり、いやすのに時がある。くずすのに時があり、建てるのに時がある。  
3:4 泣くのに時があり、ほほえむのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある。  
3:5 石を投げ捨てるのに時があり、石を集めるのに時がある。抱擁するのに時があり、抱

擁をやめるのに時がある。

3:6 探すのに時があり、失うのに時がある。保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。

3:7 引き裂くのに時があり、縫い合わせるのに時がある。黙っているのに時があり、話をするのに時がある。

3:8 愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦うのに時があり、和睦するのに時がある。

3:9 働く者は労苦して何の益を得よう。

3:10 私は神が人の子らに与えて労苦させる仕事を見た。

3:11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。

ローマ 8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

不安かもしれません。いつか分からない心配があるかもしれません。

しかしここにきらめく言葉があるのです。

「ただ」「しかし」、

「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受け」る！！

そんな心細い、不安な胸中に、ただ、しかし、との言葉の後に、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けるとの言葉が続きます。

「力」とは、先週の個所、ルカ 24 勝の終わりの所にもありましたが、これはすごい言葉です。「力」とは、強さ、力による行い、奇跡、超自然的な力、能力、才能、適性、素質、可能性、手段、方法、財力というような意味の言葉です。本当に何としても実行するだけの必要なものはすべてこの言葉の中に詰まっています。そういう物事を可能にし、かつ実現させる力を聖霊によって私たちは受けるという事です。そうすると、「あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」とあるのです。

先ほど弟子たちは「イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」と尋ねました。しかし神様は神の国のことを語りました。神の国とは、まさに「エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで」、主が造られたこの世界のすべてを指します。弟子たちは、自分の所属する場所の事だけを考えていれば良いではありません。私たちも同

様に、私たちのこと、私たちの家族のこと、この教会のこと、私たちの教団のこと、そしてキリスト教世界の事だけを考えていれば良いではありません。私たちもまた、近くから遠くまで、ここから地のはてまであまねく世界全体のことを思い、その復興を願い、再建を願い、慰めを祈るべきです。そのために、「地のはてまで、わたしの証人となる」、すなわちイエス・キリストの証し人になるという事です。それが、地のあまねく国の復興であり、再建であり、神の国を思う事なのです。

イエス様はマタイ 6 章にて、こう言われました。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

これが私たちにも求められていることです。

9 こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。

10 イエスの上って行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて

11 言った、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」

弟子たちが空を見上げてポカーンと立ち尽くしていると、天使たちがまばゆい白い衣を着て彼らの近くに立って言いました。

「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」

さあ、前を向いて進みなさい。また主との再会の時が来る。その時はいつかは分かりませんが、ただ、しかし、私たちは、聖霊によりあふれる力を頂いて、地のはてまで通用する言葉、すなわちイエス・キリストの証しの言葉を携えて、どこまでもどンドンと前進していけるのです。さあ、私たちもここから出発いたしましょう。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。いつ、どのように

して私たちの慰めが来るかと私たちは先のことを案じて躍起になってそれを求めますが、神様が良い時、良い時期にそれを神様の権威の中ご計画して下さいますからありがとうございます。再建と復興が自分の身に起こることばかり願い、自分の身について私たちはよく考えますが、神様は近くから遠くから、地の果てに至るまで、全世界を「神の国」として見ておられることをも知りました。どうかその神の国のため、今週も主の証しに励ませてください。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン